

# 世界の未来と日本の役割

岡留 真吾  
OKADOME SHINGO

さつま町立盈進小学校（鹿児島県）

担当教科：国語

●実践教科：社会科（10時間）  
道徳（1時間）

●対象学年：6年生

●対象人数：41名

## カリキュラム

### ■実践に当たって

6年生社会科「世界の未来と日本の役割（全10時間）」の単元目標は以下の通りである。

我が国の国際協力、国際連合の働き、国際交流について意欲的に調べ、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、世界の平和を守るために大切なことは何か、自分の考えをもつことができる。

学校でのユニセフや赤い羽根共同募金への子供たちの協力を見ていると、あまり積極的ではないことが分かる。理由を聞くと、「あまり興味がないから。」という答えである。海の向こう側で困っている人たちと言っても、「どんなに困っているか」、「なぜ困っているか」など姿や原因が分からないからである。だから、「自分には関係ない。」と思ってしまうのだ。

日本も戦後、アジア救済公認団体による「ララ物資」による給食支援等海外からの協力をもらっていた。また、世界銀行からも社会資本充実のために様々な融資が行われ、黒部第4ダム、新幹線、東名高速道路などの建設が行われた。さらには、日本は世界中の様々な先進国や発展途上国からたくさんの物を輸入に頼っている。私たちの生活になくはならなくなったスマホやパソコン、ゲーム機器にはレアメタルが使用されている。そのレアメタルの権益をめぐってコンゴや隣国の国では国や軍、武装勢力などによって紛争が行われている。私たちが豊かな生活を求めてレアメタルを使う機器の需要が伸びれば伸びるほど、紛争が長引くというのもまた事実である。私たちの生活は常に他国に支えられており、私たちの消費行動や生活様式が世界中にある様々な課題に影響を与えている。

そう考えると、発展途上国の人々への協力を「あまり興味がない」、「自分には関係ない。」とは言えないはずだ。そこで、私は単元目標にある『世界の平和を守るために大切なことは何か、自分の考えをもつことができる。』の箇所をさらに具体化して、次のような目指す子供像を考えた。

世界中の様々な国とつながり合っている日本人。つながり合っている世界中の国の中の一日本人としての自覚をもち、主体的に世界の様々な問題に関心をもち、よりよい判断ができる子供。さらには、自分にでもできる国際貢献を考え実践できる子供。

そこで、目指す子供像を具現化するために、現在の本学級の子供の実態を考えて、授業化するに当たり以下の視点で単元開発を行い、授業を組み立てていく。

- 「覚える事項が多く、内容にもあまり興味をもてないので社会科が嫌い。」と答える子供が3割いる。その中には、「書かれてあることが難しく、読んでも意味が分からない。または、読めない。」と答える子供が1割いる。そこで、本単元ではどの子供も主体的に課題を解決できるように参加体験活動やシミュレーション活動、動画の視聴、青年海外協力隊員やさつま町在住の外国人GTとの対話、討論活動を取り入れていく。
- 10時間という小単元において、終末まで子供の課題意識が継続できるように、導入では参加型体験活動を取り入れる。そこで、「これは不公平だ。なんとかしなければいけない。この問題を解消するために今の日本は何をしているんだ。世界はどうなっているのだ。」という強い学習動機から単元の学習計画を立てさせ、終末の「自分にでもできる国際貢献～僕の私の意見文～」という学習への目的意識をもたせたい。

### ■ 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【1時限】「世界の諸問題」</b></p> <p>世界のどこかで起きている戦争や紛争、地球温暖化や食糧問題など日本や世界の人々がこれらの問題にどのように取り組んでいるのか話し合わせ、学習の目的意識をもたせる。※本授業は2時間で行う。もう1時間は道徳の時間「世界がもし100人の村だったら」と抱き合わせて実施する。</p>	<p>本授業は6年生児童82名を体育館で合同で実施する。</p> <p>前半は、「世界がもし100人の村だったら」の教材を使い言語や人口、文化、宗教などの多様性と格差・貧困の問題を参加型体験学習を取り入れることで構造的にとらえることができるようにする。</p> <p>また、後半では世界で起こっている戦争や紛争、地球温暖化等の影響により困っている人たちがいることをフォトランゲージで気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界地図</li> <li>・ 「世界がもし100人の村だったら（開発教育協会）」の役割カード、</li> <li>・ 児童用板書資料、</li> <li>・ 海水面につかっただツバルの写真など児童の問題意識を醸成するフォトランゲージ用写真</li> </ul>
<p><b>【2時限】「日本とアフリカのつながり」</b></p> <p>私たちの身の回りにあるモノについて日本から遠く離れたアフリカとのつながりを見付け、私たちの生活がアフリカをはじめとする世界中の国々や地域から支えられていることに気付かせる。また、アフリカをはじめとする世界中にある課題が私たちの生活と密接に関わっており、自分たちの消費行動や生活様式により大きな影響を与えていることに気付かせる。</p>	<p>スマホやゲーム機、チョコレートなど子どもたちにおなじみのモノが描かれてある絵カード18枚を配布し、アフリカとどのようにつながっているのかをグループで話し合わせる。また、コラム「レアメタルが軍事資金に」を読んで、考えたことをグループで話し合わせる。</p> <p>本時のワークショップで出た「日本はアフリカなどの国から支えられている」という現実と第1時限で出た「世界の諸問題」を関係付けて子供たちから学習問題と学習計画を立てることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際理解教育実践資料～世界を知ろう！考えよう！～（JICA）ワーク①掲載の絵カード</li> <li>・ レアメタル問題における動画</li> <li>・ 第一時で使用した写真資料（板書用）</li> </ul>

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【3時限】「世界の平和と安全を守る国際連合Ⅰ」</b>            国連の中のユニセフ、ユネスコ、平和維持活動の目的や活動内容についてインターネットや図書資料で調べて理解できるようにする。</p>	<p>子供にとって目的や活動内容が比較的分かりやすい左記3つを調べ学習の対象とする。また、子供が知っている活動内容が分かりやすく豊富に掲載されているHP「国連キッズ」を使って調べ学習を行わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>世界中の人々が平和に暮らすことができるようにするために、日本はどんな活動をしているのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ HP 国連子供キッズ</li> <li>・ 「国際連合の働き（角川出版 1992）」</li> </ul>
<p><b>【4時限】「世界の平和と安全を守る国際連合Ⅱ」</b>            前時で調べた機関や活動に携わってきた2人の日本人の動画を見て、国連の働きや携わる人たちの願いを考える。</p>	<p>前時で調べたユニセフやユネスコ、平和維持活動の目的や活動内容を比べることで、国連の目的を考えさせる。また、国連WFP アジア地域局長の忍足謙朗さん、国連事務次長明石康さんの動画を使って2人の活動詳細や願い、苦勞を捉えさせ、国連では様々な国の人たちが協力し合って世界の平和のために活動していること、またわが国がその重要な働きをしていることに気付かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～忍足謙朗」の動画</li> <li>・ 国連平和維持活動～わたしたちの国際平和協力」（日本広報センター）</li> </ul>
<p><b>【5時限】「地球環境を守るための取組」</b>            地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国際連合を中心として、様々な努力をしていることを理解させ、今後さらに日本に求められる取組はどんなことかを考える。</p>	<p>環境問題の原因と解決のための世界の取組である国連人間環境会議、地球サミットでの決定事項などの取組を調べさせる。さらに、京都議定書での決定がうまくいかなかった原因について先進国と発展途上国の南北問題について理解させる。発展途上国が議定書に調印しなかったことについてどう考えるか討論をさせた上で、先進国や日本の今後の取組はどうあるべきか考えさせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界の二酸化炭素排出量グラフ</li> <li>・ 南北問題の概要を示したプリント</li> <li>・ 環境問題に対する世界や日本の取組をのせたプリント</li> </ul>
<p><b>【6時限】「NGOとODA」</b>            日本の世界貢献には、国連以外にも NGO や青年海外協力隊など支援を必要としている人々ために教育・医療・農業などの幅広い分野での活動がなされていることを理解させる。</p>	<p>世界には 67,000,000 人の学校に行けない子供がいる。教育が受けられないことで起こる負の連鎖を絵カードを使って並べ換えさせるようにする。さらには、負の連鎖を断ち切るためには、どのような支援が必要になるのかをグループで考えさせることで、日本の NGO や ODA における活動に結びつける。</p> <p>さらには、終末 15 分で実際にコートジボワールに行った元青年海外協力隊員の方を GT として招聘し、参加動機や現地での苦勞や喜びを捉えさせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際理解教育実践資料～世界を知ろう！考えよう！～ワーク②の絵カード（JICA）</li> <li>・ 様々な分野で活躍している青年海外協力隊の写真</li> <li>・ 青年海外協力隊の GT</li> </ul>

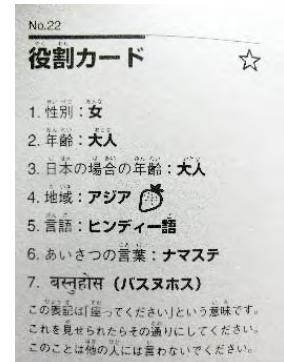
時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【7時限】「文化やスポーツを通じた国際交流」</b></p> <p>いろいろな分野で国際交流が広がる中で、自国の文化や伝統を大切にする一方で、お互いの文化や伝統を理解し合い、差別や偏見なく交流し合うことが、平和な国際社会を築くことにつながることを考えさせる。</p>	<p>さつま町在住には、外国人が59人いらっしゃる。人数割合の多いフィリピン、中国、韓国、アメリカ出身の4名をGTとして招聘し、日本にいらした理由、楽しかったこと、苦労したこと、悲しかったことをシンポジウム形式で話をしてもらおう。後半25分で、子供たちからの質問や意見に答えていただく時間を設け、国際交流を行う上で大切なことは何かを考えることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人GT4名</li> <li>・ 前单元「日本とつながりの深い国々」で学習した各国の伝統や文化に関して疑問に思ったこと等をあらかじめ質問内容として考えさせておく。</li> </ul>
<p><b>【8時限】「世界の水・食糧・エネルギー問題」</b></p> <p>世界の水・食糧問題の原因を知り、自分にもできる解決方法を考えさせる。</p>	<p>「ほくら地球調査隊～ウェブコンテンツ～(JICA)」を使って、世界の水・食糧問題の原因を調べさせ、日本が年間640億m<sup>3</sup>の水を間接輸入している実態、日本の食料輸入におけるフードマイレージの問題や世界の食料価格の高騰等を理解させる。</p> <p>さらには、その課題から自分たちにもできる課題解決方法はないかを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ほくら地球調査隊～ウェブコンテンツ～(JICA)」</li> <li>・ グループ討議</li> </ul>
<p><b>【9時限目】「自分にもできる国際貢献 ～僕の私の意見文～」</b></p> <p>今の自分たちにでもできる国際協力や日本人が行える国際協力や将来の国際協力のあり方について意見文を書く。</p>	<p>「水」「食料」「エネルギー」「リサイクル」「書き損じはがき回収や募金活動」「我が国及び他国の文化や伝統に関心を持ち、知ろうとすること」「世界で起こっていることに興味を持ち、知ること」等、既習事項の観点を示して意見文を書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの板書資料</li> <li>・ 2学期に国語科で使った意見文の手引き</li> </ul>
<p><b>【10時限目】「自分にもできる国際貢献 ～僕の私の意見文～」</b></p> <p>書き上げた意見文の発表会を行い、国際協力における視野を広げるようにする。</p>	<p>グループで意見文を聞き合い、各班代表児童の発表から学級代表児童を一人決めるようにする。代表児童については、児童集会で発表したり、町や新聞の広報に掲載してもらったりして幅広く啓発を図っていくようにする。</p>	

## 授業の詳細

### 1 時限目 「世界の諸問題」「世界もし100人の村だったら（開発教育）」を使って

#### ① 子供の活動の流れ（社会科1時間+道徳1時間 計2時間扱い）

- ① この「世界がもし100人の村だったら」という教材は、参加型体験活動を取り入れた学習で、国際理解教育・開発教育なので盛んに用いられている手法の一つである。世界の総人口を100人にしたとき、男女比・年齢層比・大陸別人口密度・言語の多様性・富の配分率・識字率などは、どのようになっているかを体験できる活動のである。学年合同82名、体育館で実施した。子供たち一人一人には、「男性・老人・アジア・中国語（ニーハオ）・文字が読めない…」など上記観点の情報が書かれてあるカードを配布した。カードは一人一人異なる情報が書かれてあり、「同じ言語の人同士で集まりなさい。」



【カード例】

「書かれてある地域（大陸）に移動しなさい。」などの教師の指示通りに行動することによって、楽しみながらも世界の多様性と格差・貧困問題を構造的に捉えることができる。

- ② 後半20分は、世界で起こっている戦争や紛争、地球温暖化等の影響により世界で困っている人たちの写真をフォトランゲージで見せる。それらはどこでどんな問題を抱えているのかを話し合わせる。

#### ② 子供の活動の成果・反応

- ① 体験活動を取り入れたり、途中でグループ討議を入れ込んだりすることで、前单元「日本とつながりの深い国々」や国語科「平和について意見文を書こう」等で学習した知識・認識が線につながり、面となつてつながっていった。
- ② 子供たちの振り返りを読むと、予想通り「日本に生まれてよかった。」「世界にはいろんな人たちがいろいろな立場で生活をしているんだ。」「世界にはいろんな問題があるのを知ってびっくりした。」という感想が大半を占めていた。

### 2 時限目 「日本とアフリカのつながり」

#### ① 子供の活動の流れ

- ① 『国際理解教育実践資料～世界を知ろう！ 考えよう！（JICA）』のワーク①掲載の絵カード18品目を配布し、アフリカとどのようにつながっているのかを調べて確かめる。
- ② コラム『レアメタルが軍事資金に』を読み、感想を話し合い、学習のめあてと計画を立てる。コラム要約は以下の通りである。



【ワーク①掲載の絵カードの一部】

スマホやパソコン、ゲーム機器にはレアメタルが使われている。そのレアメタルを巡ってコンゴでは、国や軍、武装勢力などによって紛争が起きている。多くは違法採掘から活動資金を得ている。日本でスマホ等の需要が伸びると、紛争が長引く現実がある。アフリカが抱える問題には、私たちの消費生活が影響している。

## ② 子供の活動の成果・反応

- ① アフリカから輸入されている物はチョコレートとダイヤだけだと思っていたグループがほとんどであった。自分たちの暮らしがアフリカをはじめとする世界中の国から支えられていることに驚いていた。
- ② 自分たちの消費行動や生活様式が、アフリカをはじめとする世界中にある課題と大きく関わっていることに驚いていた。さらには、前時で「世界中で起きている様々な課題は実は人事ではなかったのだ。」「なんとかしたい。日本はそのために何かしているのか。」という思いをもつことができ、子供が主体的に学習計画を立てることができた。



【コラムの感想を話し合う子供】

## 3・4時限目 「世界の平和と安全を守る国際連合Ⅰ・Ⅱ」

### ① 子供の活動と流れ

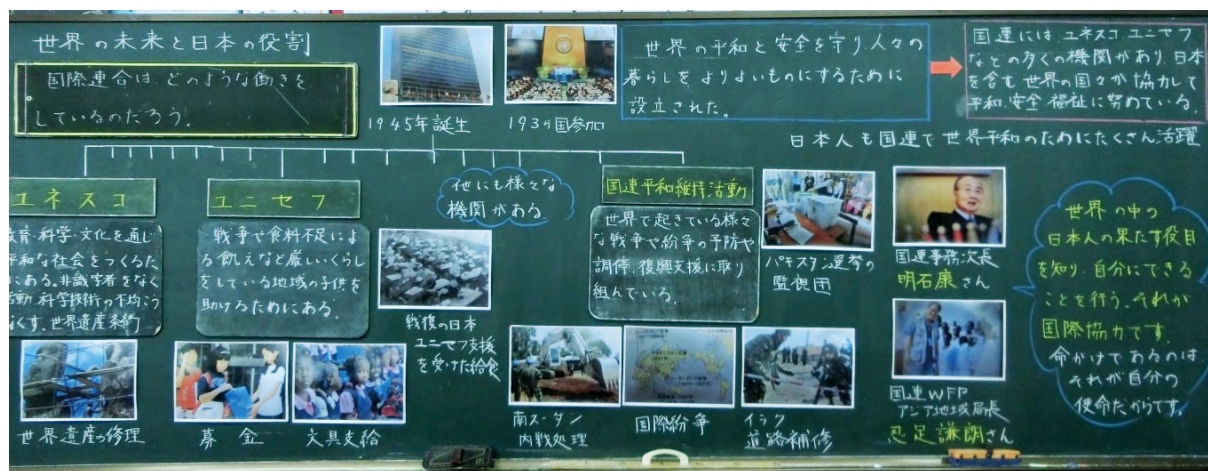
- ① 3時間目でインターネット『国連キッズ』を使って、国連の中でも比較的に子供に分かりやすい活動である「ユネスコ」「ユニセフ」「国連平和維持活動」に焦点を当ててどんな目的でどのような活動をしているのかを調べる。
- ② 4時間目で、「ユネスコ」「ユニセフ」「国連平和維持活動」の目的や活動内容を比較させることで、国連そのものの目的と構成を考えた。さらに、国連 WFP アジア地域局長の忍足謙朗さん、国連事務次長明石康さんの動画を使って2人が取り組んできた活動詳細や願い、苦勞を捉える。動画は2本とも50分程度の番組であるが、50分番組中の忍足さんの願いや苦勞のインタビュー場面に限定して5分間程度を視聴させた。



【NHK 仕事の流儀 プロフェッショナル】  
「食料支援、届けるのは未来」  
よりインタビュー場面の画像

### ② 子供の成果・反応

- ① 忍足謙朗さん、明石康さんが任務を遂行するためには命の危険もあったこと、与えられた条件下では任務遂行が難しい様々な物的・金銭的・人的困難があったにも関わらず、それでも



【4時限目板書】

各国の仲間と任務を遂行したその使命感に心を打たれていた。

- ② 2人の任務が『ただ食料を届けさえすればよかったのか。』『ただ正当な選挙を行えばよかったのか。』をグループ討議することで、2人の最終ゴールが「現地の方々が自立できること」を目指しており、一つ一つの援助は緻密に計算されていることを子供自身で考えることができた。

## 5時限目 「地球環境を守るための取組」

### ① 子供の活動と流れ

- ① 二酸化炭素排出は、豊かで便利な生活や利潤を求めるがために排出されている事実を確認する。その結果、世界の各地で異常気象や海面上昇などで困っている国があることをスライドで確認する。
- ② 環境問題を解決するための世界的な取組を、資料を使って調べさせ、国連を中心として各国が様々な努力をしていることを調べる。
- ③ 京都議定書の中の二酸化炭素排出量削減について、発展途上国側の言い分と先進国側の言い分をそれぞれ考えさせ、討論を行った。その上で、日本を含む先進国の今後の役割について考える。



【5時限目板書】

### ② 子供の成果・反応

- ① 「発展途上国にとっては、今までさんざん経済優先のために二酸化炭素を排出してきたからこそ、今の環境問題を引き起こしている。これからは、発展途上国だって同じように産業を発展させていきたいのに、いきなり二酸化炭素排出削減と言われても不公平感を感じるはず。そうは言っても、このまま排出していいというわけにもいかないし・・・。」と全員が真剣に議論をしていた。
- ② 日本を含むこれからの先進国に求められることは、発展途上国へのエネルギーエコ政策技術援助や環境をよりよくする技術開発をして途上国に援助することなど、現在求められていることを子供自身が考えることができた。

## 6 時限目 「NGO と ODA」

### ① 子供の活動と流れ

- ① 教育が受けられないことで、どんな事が次々と引き起こされるのか絵カードを使って並べ換えさせる。
- ② 教育が受けられないことで起こる負の連鎖を断ち切るためには、どのような支援が必要になるのかを絵カードをもとにグループで考えさせる。さらに子供たちの発表をもとに、アプリカで農業、医療、教育等様々な分野で活躍する青年海外協力隊の姿を写真や映像を使って説明することで日本の NGO や ODA への取組をおさえる。
- ③ 終末では、コートジボワールに行った元青年海外協力隊員の本校職員を GT として招き、参加動機や現地での苦労や喜びを捉える。

### ② 子供の成果・反応

- ① 絵カードを並べ替えて「自力で悪循環から抜け出せるか話し合う活動」を通して、貧困状況に陥ることは怠惰や個人の努力不足ではなく、貧困状況に一度陥ってしまうと個人の努力では悪循環から抜け出すことが難しいことを実感していた。
- ② 絵カードは、負の連鎖を断ち切るために、どんな分野での支援が必要になるかを考える手立てにもなった。さらには、教師がこれまでに渡航した国の青年海外協力隊の写真や動画、また教師自身が実際に NGO として井戸掘り事業に携わっていたときの写真を提示することで、子供にとって縁のない遠い世界だったものが、より身近なものに感じることができた。
- ③ 元青年海外協力隊員の話を書くことで、「国際協力の理念や大切さは分かるが、実際に現地に行って活動するとなると話は別。実行するのは、様々な面で難しい。」という子供の考えが、「国際協力は特別なことではなく、どんな形でも貢献できる。自分にもできることがある。」と国際協力に対するハードルが下がり、前向きな気持ちが出てきた。



【6時限目板書】



## 7時限目 「文化やスポーツを通じた国際交流」

### ① 子供の活動と流れ

- ① さつま町在住外国人で人数割合の多いフィリピン、中国、韓国、アメリカ出身の4名と「国際交流 in さつま町 これからの国際交流の在り方」についてシンポジウムを行う。前半10分で4名が「ここが変だよ！ 日本人！～でもそれって本当に変？」を題目に、フリートークを行っているのを子供たちが聞く。

※ 4名には、あらかじめ「日本文化で驚いたことを話してもらうように伝えておく。さらには、差別や偏見で見ることのないような態度や見方の育成が大切であるという授業の意図を伝えておく。



【外国人の質問に応答する子供たち】

- ② 途中15分で、4名が感じた「日本人の変だと思ふ文化や考え方」について子供たちが応答する。さらには、前単元「世界の中の日本」で学習した4国の文化や伝統について、驚いたことや不思議だなと思ったことを4名に質問する。
- ③ 国際交流を行う上で大切なことは何かをグループで考えて発表する。

### ② 子供の成果・反応

- ① アメリカの方が「日本人は何をするにしても『すみません』と謝る。なぜそんなに謝らなくていけないのか。」の疑問に、子供たちは興味津々になった。しかし、どのように説明したらよいか分からずグループで議論になっていた。結局、「それは謝っているのではない。『ちょっと待ってください。』とか『ちょっといいですか。』などの意味合いで使っていることの方が多いです。それは日本人の相手を気遣う思いやりです。」と説明できた。子供たちは、それぞれの国にはそれぞれ大切にしている文化や伝統があり、それらを互いに説明して尊重する態度が大切であることを理解していた。

## 8時限目 「世界の水・食糧問題」

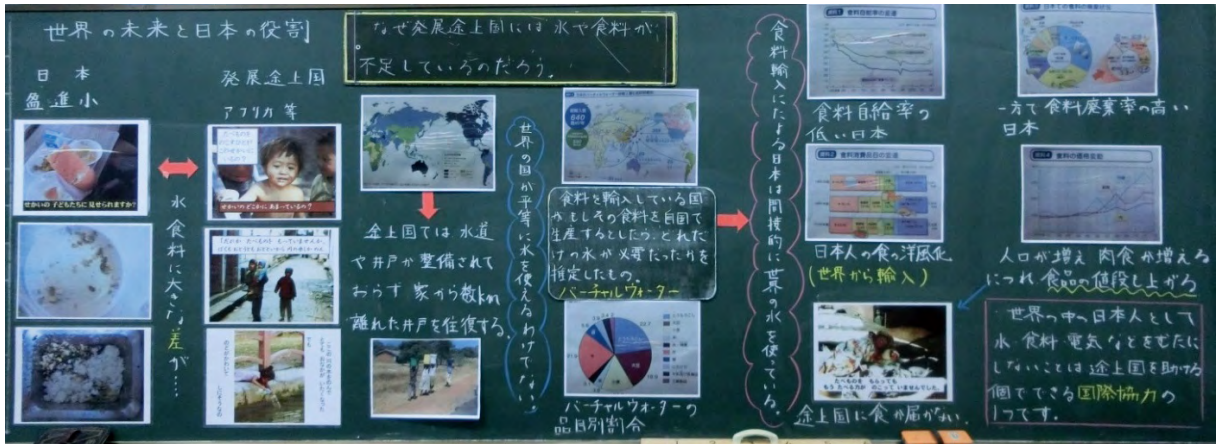
### ① 子供の活動と流れ

- ① 水・食糧不足に悩んでいる国の写真と本校児童の残食の写真を提示して、なぜこのような格差が生まれているのかを話し合う。
- ② 格差の原因を「ぼくら地球調査隊～ウェブコンテンツ～(JICA)」を使って、世界の水・食糧問題の原因を調べ、日本が年間640億m<sup>3</sup>の水を間接輸入している実態、日本の食料輸入におけるフードマイレージの問題や世界の食料価格の高騰等をまとめる。
- ③ 世界の水・食糧問題を解決するために今の自分にもできる事を考え、発表する。

### ② 子供の成果・反応

- ① 日本の食糧自給率の低さと食糧輸入量の多さ、食糧廃棄率の高さ、先進国の食糧輸入による食糧価格高騰などによって、発展途上国の人々に食糧が行き届かない現状があることを知り、『世界の水・食糧問題』は自分たちがその一原因を作っていることを実感していた。そのため、自分にもできる国際協力について真剣に議論して、以下のような国際協力宣言書を掲げて取り組むようになった(一部掲載)。

- ・ 食事を残さないのは当たり前で、買い物に親と行くときは、できる限り地産地消に努めるようにアドバイスする。等



【8時限目板書】

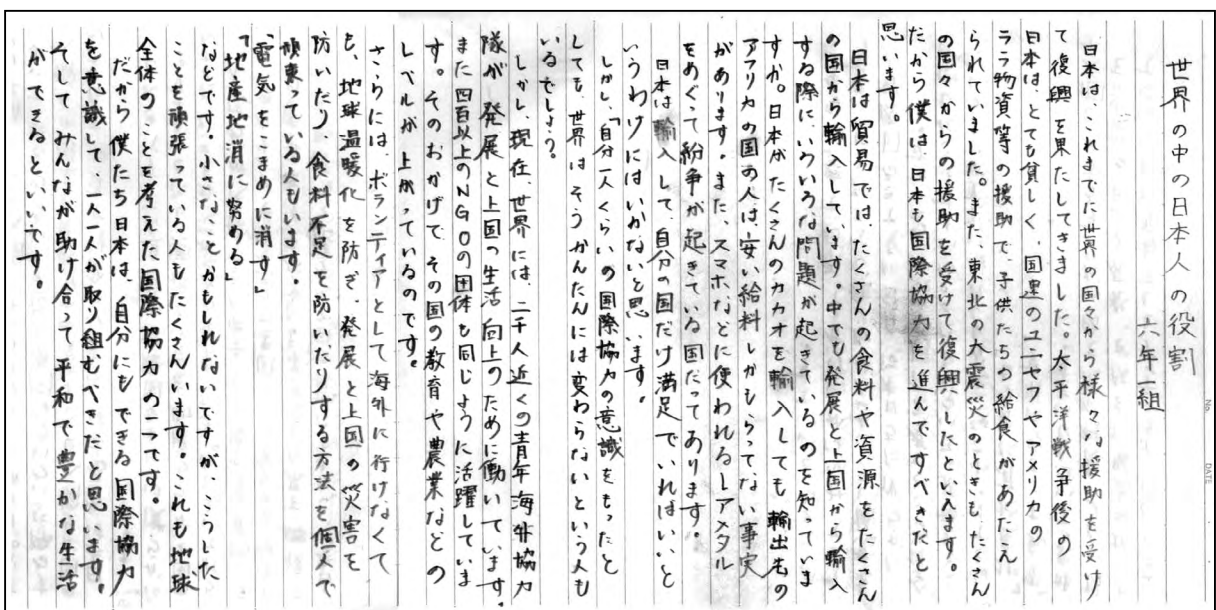
## 9・10時限目 「自分にもできる国際貢献～僕の私の意見文～」

### ① 子供の活動と流れ

- ① 「水・食料不足解消のために」「二酸化炭素排出抑制のために」「リサイクル」「書き損じはがき回収や募金活動」「我が国及び他国の文化や伝統に関心をもち、知ろうとすること」「世界で起こっていることに興味をもち、知ること」等、既習事項の観点を示して意見文を書く（意見文の様式については国語科で学習した手引きを利用する）。
- ② 互いの発表を聞き合うことで、国際協力に関する視野を広げる。

### ② 子供の成果・反応

- ① これまで学習した内容を再構成して意見文を書くことで、これまで学んできた点でしかなかった知識が線でつながり面となって知識のネットワーク化ができた。



【9時限目で書いた子供の意見文】

## 成果と課題

### ■ 成 果

- ① 単元導入で「世界がもし 100 人の村だったら」を使って世界の不均衡を体験的に学習した。その中で、子供が抱いた疑問や強い憤りが学習の起爆剤になり、「なぜこのような不均衡が起こるのか。」「世界や日本は解決するために一体何をしているのか。」という疑問を深化・発展させながら学習を進めることができ、単元を終えてほぼ全員がこの単元を「楽しかった。」と答えていた。
- ② これまで学習した内容を全て関連付け、世界中の様々な国とつながり合っている『自分』を意識できるようになった。つながり合っている世界中の国の中の一日本人としての自覚をもち、自分にもできる国際貢献を考え実践できるようになった。
- ③ まだまだ少数ではあるが、「なぜテロが起こっているのか。」「なぜ TPP は導入されたのか。」等疑問をもち、インターネットで調べて日記に書いてくるなど、主体的に世界の様々な問題に関心をもてるようになってきた。

### ■ 課 題

- ① 世界の様々な問題に関心をもち進んで調べたり、考えたりできる子供を育成するには、様々な教科との有機的関連を図った授業構築が求められる。また、毎日の新聞記事をどのように教育活動に取り入れていくのかも研究していく必要がある。

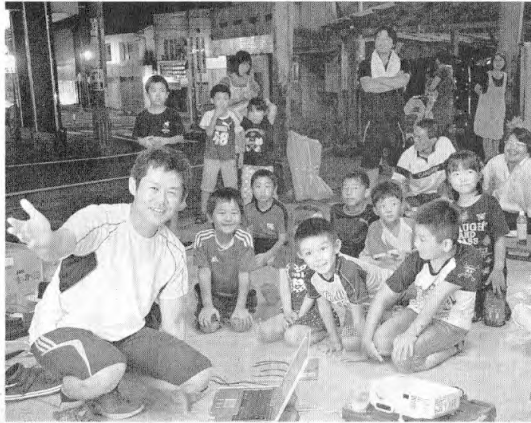
## 終わりに

本単元は、6年生の3学期3月に実施する社会科の一番最後の単元である。卒業を間近に卒業式練習、通知表や指導要録の記入等で慌ただしくなり、どちらかという深い教材研究のもと、児童の関心・意欲・態度を高める実践がなされにくい単元である。昨年度私は縁あって教師海外研修プログラムに参加し国際協力における現場を視察させていただいたことで、私自身は幸運にも国際協力の大切さを身にしみて感じる事ができた。

私が今回教師海外研修プログラムに参加させていただいた目的は、「マラウイのことを子供たちに伝える」ことではないと感じています。この2週間の研修を通して培った「世界の情勢を進んで知ろうとする姿勢、世界の中の日本人の役割を意識して行動できる姿勢」をこれからの子供たちに指導していくこと、そして自分以外の先生方がその意義に納得していただき、いつでもどこも再実践できるような単元構成をつくることだと考えています。

そのような意味で本実践が少しでも多くの先生方の参考になることを期待します。また、授業以外の場でも、子供たちに国際協力の事を伝えられる機会があれば、喜んでお話をさせていただきたいと思います。

## 12時間労働、弟妹背負い登校「それでも目は輝いていた」

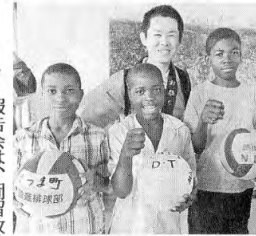


↑ スライドを使い児童らに説明する岡留真吾教諭(左) =さつま町

# アフリカの子 命の力感じた

さつま町の盈進ひびき小学校の岡留真吾教諭(42)は国際協力機構(JICA)の教師海外研修のメンバーに選ばれ8月11、12日、アフリカ南東部のマラウイへ渡航した。9月28日には同町宮之城屋地の天神公民会の十五夜行事で特別授業。「世界の中で日本が果たす役割を意識してほしい」などと語った。研修は、開発途上国の現状や九州から計8人、真内2人が、国際協力への理解を深め、教育、青年海外協力隊員らが活動するに役立ててもらうことが目的。学校や病院などを視察した。

## 生き抜く力、培って さつま・盈進小 岡留教諭報告



土産のバレーボールをマラウイの子に渡す岡留真吾教諭=中央上(岡留さん提供)

報告会は、岡留教諭が土産として持参したバレーボールを、同公民会の春山智さん(48)が集めた縁で開いた。マラウイは1人当たりの国民総生産(GDP)が日本の約0・7%の242年で最貧国の一つ。報告会では文化や生活のほか、乳幼児死亡率が日本より28倍も高く、隊員が栄養指導する様子などを紹介。弟や妹を背負って学校に来る子や、タバコ農園などで1日12時間働き学校に来られない子がいる現状なども説明した。

岡留教諭は「それでも子どもたちの目はキラキラ輝き『今の生活は幸せ』と感じることのできる心の豊かさがあった。日本の子にも生き抜く力や、本当の幸せに気付く力を伝えたい」と話した。

3学期には担任する6年生の社会科授業でも報告する。盈進小1年の盛島大煌君は「同じ小学生がものすごく頑張っていて驚いた。もっと勉強したい」と話した。(天塚政志)

【南日本新聞 10月12日の記事より】